

特集

「継承語教育」を問い直す

今、幼少期より複数言語環境で成長する子どもたちが世界各地で拡大しています。その子どもたちが親や祖父母に繋がる言語を学ぶ教育は、「継承語教育」と一般に呼ばれています。では、子どもが受ける「継承語教育」を、私たちはどのように捉えたらよいのでしょうか。親や教育実践者はどのような意識や見方を持っているのでしょうか。子どものもつ複言語を育てていくという視点や、「継承語教育」を受ける子ども自身が「継承語」をどのように受け止めているかという視点も、必要なのではないのでしょうか。

日本語だけではなく、移民言語、先住民言語、地域語など、今、成長する子どもたちが学ぶ「継承語教育」は、多様に展開されています。その実践の中で、「継承語教育」に関わる大人や子どもには、様々な思いや試行錯誤、不安、葛藤もあるかもしれません。それらの思いも視野に入れながら、「継承語教育」のあり方、実践の方法、子どもの現状と成長を捉え直し、21世紀の子どもたちの「ことばの教育」を考えたいと思います。

(編集部)